

序 文

神庭 重信

国際疾病分類第 11 版 (ICD-11)⁸⁾は 2018 年 6 月にその導入版が発表され、翌年の WHO 総会で正式に承認された。精神疾患の新分類は ICD-11 第 6 章「精神，行動，神経発達 of 疾患」に記載されているが、これとは別に、疾患ごとの「臨床記述と診断ガイドライン」(Clinical Descriptions and Diagnostic Guidelines : CDDG) の作成が進められている*1。ICD-10 (1992 年) から約 30 年の時を経た今回の改訂では、この間に蓄積されてきた研究成果を盛り込みつつ、信頼性ととも有用性の向上が重要な目標として位置づけられた⁷⁾。

今回から始まる解説シリーズでは、ICD-11 の第 6 章「精神，行動，神経発達 of 疾患」(Mental, Behavioural or Neurodevelopmental Disorders : MBND) の疾患分類とコードの説明、ICD-10 からの変更点や DSM-5 との相違点、そして日本語病名などについて紹介する。本シリーズは、MBND の概要を紹介し、ICD-11 の導入に備えていただくことを目的としている。

日本精神神経学会は、2006 年に飯森眞喜雄氏 (現東京医科大学名誉教授) を初代委員長として ICD-11 委員会を設置し (2013 年から神庭重信が委員長)、ICD-11 MBND の疾患分類および診断ガイドラインの作成に協力してきた。

ICD-10 の改訂にあたっては、Hyman, S. 氏を座長とする国際アドバイザー・グループが結成され (2007 年)、このときに日本から丸田敏雅氏が加わった。このグループのもとに疾患群ごとのワーキンググループ (WG) が組織され、診断ガイドラインの草案作成が進められた。日本からは、精神症<精神病>性疾患群 WG に丸田敏雅氏、強迫症 WG に松永寿人氏、ストレス関連症 WG に鈴木友理子氏、睡眠覚醒障害 WG に本多真氏が参加している。

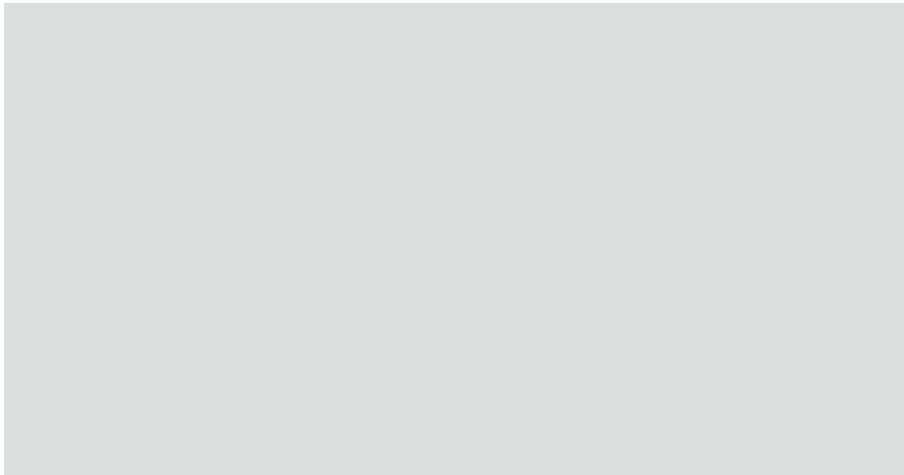
その後、ICD-11 CDDG の草案はフィールドスタディで

検討された。これには 2 種類あり、1 つは米コロンビア大学精神科が管理運営する Global Clinical Practice Network (GCP.Network) を利用したインターネットでの症例研究^{2,3)}である。疾病負荷の大きい疾患の症例とともに、ICD-10 および ICD-11 の診断ガイドラインをそれぞれ提示して、参加者に診断を求め、両者の正答率などを比較した。この GCP.Network 調査には全世界で約 13,000 名が参加した。日本精神神経学会もこれに加わり、日本からは、中国 (約 2,000 名)、米国 (約 1,400 名) につぐ、1,000 名を超える医療関係者に参加していただいた。

続いて、ICD-11 CDDG 草案を実際の診療場面で受診者に適用して、信頼性と有用性を評価する研究が進められた^{5,6)}。このプロジェクトを推進するために、2009 年に Field Studies Coordination Group (FSCG) が結成され、丸田敏雅氏、松本ちひろ氏、秋山剛氏と神庭重信とが参加している。本学会は、FSCG 参加国の主要メンバーによるスタートアップ会議を東京で主催した (2016 年、図)。FSCG の研究には、全世界 13 ヶ国、国内 20 施設が参加している。この研究に協力して下さった国内の施設ならびに医師達の貢献を賞してリストを掲載させていただく(表)。

さらに 2018 年になり、ICD-11 CDDG の各国への導入と普及のための活動を行うことを目的とした WHO the International Advisory Group for Training and Implementation for ICD-11 Mental, Behavioural or Neurodevelopmental Disorders に神庭重信、松本ちひろ氏 (オブザーバー) が参加している。

精神科医が治療の対象とする疾患は第 6 章「精神，行動，神経発達 of 疾患」に限られるわけではない。例えば、睡眠障害は、非器質性 (ICD-10 では F51) と器質性を一括して第 7 章に、てんかんは第 8 章「神経系の疾患」に分類されている。性別不合<性同一性障害>は性機能不全などと



**図 日本精神神経学会が主催した Field Studies Coordination Group 参加国の
主要メンバーによるスタートアップ会議（東京，2016年）**

前列左から，First, M. B. 氏，Pike, K. 氏，リーダーの Reed, G. G. 氏，右端は Pincus, H. 氏

合わせて17章「性の健康に関する状態」にまとめられている。さらに、燃え尽き、児童虐待、DV、急性ストレス反応など、精神科医がしばしば遭遇する問題は、第23章「罹病あるいは死因の外的原因」あるいは第24章「健康状態または医療サービスとの接触に影響を与える要因」に記載されている。ちなみに、認知症は原因が神経変性による病態だということで、一時期、第8章「神経系の疾患」に配置されたことがあった。これに対して各国の精神医学会は連名でWHOに異議を唱え、議論の末に第6章に戻された、という経緯があった（詳細は文献1を参照されたい）。

ICD-10が作成されて四半世紀がたち、分類とコードなどに大幅な変更が、また疾患概念（臨床記述）や診断ガイドラインにも随所に重要な変更が加えられている。例えば、第6章のタイトルである「精神、行動、神経発達 の疾患」にみるように、神経系の発達という視点が取り入れられた分類となっている。ICD-10に慣れた方は当初戸惑われることもあろうが、使いやすさ（有用性）は格段に向上している。またDSM-5（2013年）とのハーモナイゼーションが図られているため、両者の類似性は高く、DSM診断に慣れている方には違和感が少ないのではなかろうか。一方でICD-11は、DSM診断のように厳密で操作的な「診断基準」を用いるのではなく、「診断に必須の特徴」が箇条書きで列挙されている。「付加的特徴」「正常との境界」「経過の特徴」「文化関連の特徴」「発達上の特徴」「性差関連の特徴」「他の疾患との境界」を考慮しつつ、臨床医が総合

的に判断する余地が与えられている。ここには、世界中のどの地域でも使えることを目的としたICDらしさが残されているといえよう*2。

最後に、病名と用語の日本語訳について説明を加えておきたい。日本精神神経学会精神科用語検討委員会と精神科関連12学会・委員会から構成される精神科病名検討連絡会は、かつてDSM-5の日本語病名・用語の翻訳を検討するために2012年2月に設置され、翻訳ガイドライン⁴⁾を完成させ、引き続いて2016年からはICD-11の日本語病名・用語の検討を重ねてきた。精神医学と接点をもつ日本小児科学会、日本神経学会などからもオブザーバーの方に参加していただいた。草案の作成過程では、日本精神神経学会の会員、代議員、理事へのアンケートおよび市民の方々（特に患者家族会）へのパブリックコメントの募集を行い、また厚生労働省ICD室（略称）および日本医学会医学用語管理委員会との打ち合わせを繰り返してきた*3。

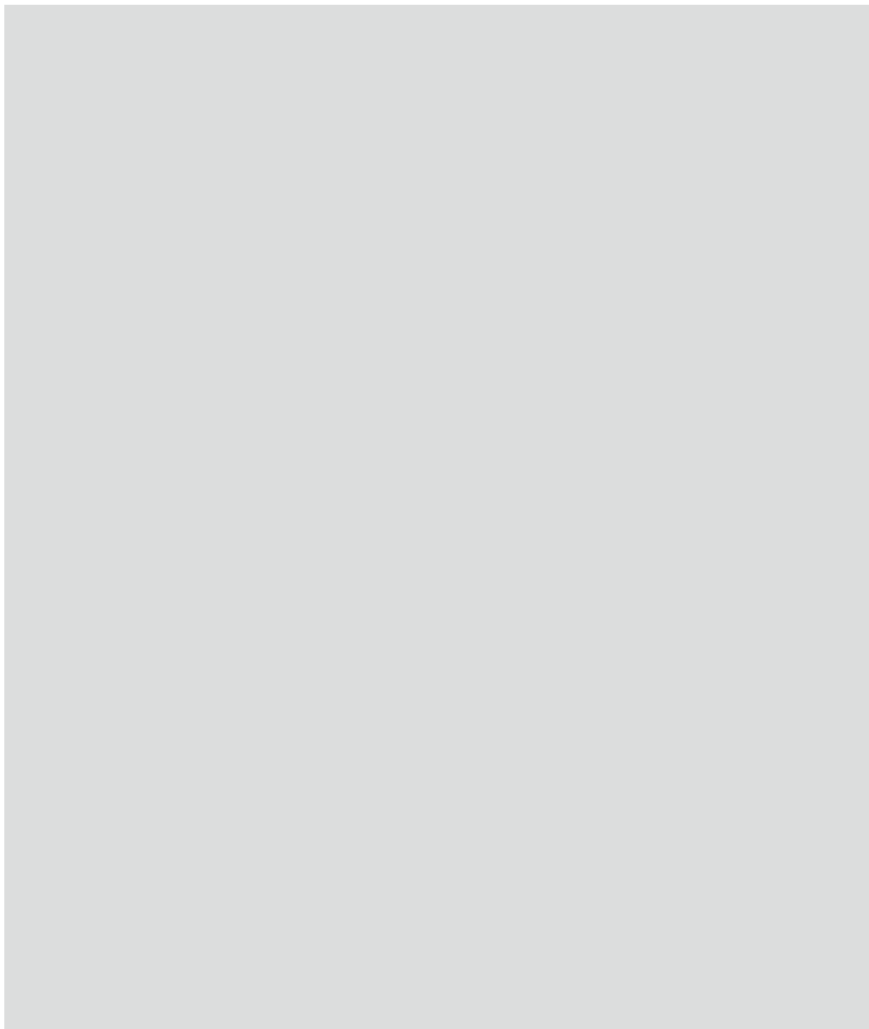
大きな変更は、病名のdisorderの訳に、disability「障害、障がい」と混同されやすい「障害」ではなく、「症」をあてたことである。この試みは、すでにDSM-5の翻訳の際に、一部の病名（例えば児童思春期の疾患や不安・恐怖関連の疾患など）で導入している⁴⁾。そして「○○症」が大きな混乱なく使用されることを確かめたうえで、ICD-11では、原則すべての病名の「○○障害」を「○○症」に変更することにした。例えば、bipolar disorderの日本語病名は、双極症<双極性障害>となり、新病名が定着

**表 日本精神神経学会 ICD-11 作成に向けたフィールドスタディに参加した
施設と協力者リスト**

a. フィールドスタディ 施設責任者・施設コーディネータ（当時の所属）



b. 臨床実地フィールドスタディ データ収集協力（50 音順，敬称略）



するまでは、同義語を山括弧で併記することにした。また、発達障害という分類は日本独自のものであり、ICD-11やDSM-5の神経発達症とは対応していない。このような類義語の場合には、神経発達症（発達障害）のように丸括弧を用いて区別している。

また ICD-11 の診断名に登場する psychosis や psychotic は、幻覚や妄想などの症状を指して限定的に用いられている。したがって、これまで多義的に用いられ、とかく誤解や偏見の対象とされがちだった「精神病」の代わりに、「精神症<精神病>」を用いることにした（例：双極症 I 型、精神症症状を伴う）。また、ICD-11 で定義される病態像をより適切に表すために訳を変えた病名も複数ある。これらの変更に関しては、本シリーズのなかで説明が加えられる予定である。さらに、本シリーズでは、ICD-11 の文脈で使われる psychiatric (mental) disorder には、DSM-5 に倣って原則「精神疾患」をあて、「精神障害」は『障害者総合支援法』でいう障害の文脈で使われる場合などに限定した*4。

なお、ICD-11 MBND の病名用語の翻訳ガイドラインは最終的に確定され次第、学会 HP および本誌において報告する。

なお、本論文に関連して開示すべき利益相反はない。

注

*1 CDDG の作成は大詰めを迎えており、2021 年前半にブルーブックを概ね完成させる予定であると聞いている。

*2 ICD-11 診断を構造化面接で行うための the Structured Clinical Interview for ICD-11 (SCII-11) の作成も進められており、First, M. B. 氏（コロンビア大学）を中心としたこの作成グループには平野羊嗣氏（九州大学）が参加している。

*3 本稿執筆時点では確定できていない用語もあるため、本シリーズでは、2020 年 3 月 6 日時点における暫定案を用いる。今後変更さ

れる可能性があることをご理解いただきたい。

*4 一般名詞として用いられる psychiatric (mental) disorder の日本語訳については本稿出版の時点で結論に至っていない。本シリーズでは「疾患」を広義で用いて「精神疾患」で統一することにした。

文献

- 1) Gaebel, W., Jessen, F., Kanba, S. : Neurocognitive disorders in ICD-11 : the debate and its outcome. *World Psychiatry*, 17 (2); 229-230, 2018
- 2) Global Mental Health Program at Columbia University : Global Clinical Practice Network. 2018 (<https://gcp.network/>) (参照 2020-03-06)
- 3) Guler, J., Roberts, M. C., Medina-Mora, M. E., et al. : Global collaborative team performance for the revision of the International Classification of Diseases : a case study of the World Health Organization Field Studies Coordination Group. *Int J Clin Health Psychol*, 18 (3); 189-200, 2018
- 4) 日本精神神経学会 精神科病名検討連絡会 : DSM-5 病名・用語翻訳ガイドライン (初版). *精神経誌*, 116 (6); 429-457, 2014
- 5) Reed, G. M., Sharan, P., Rebello, T. J., et al. : The ICD-11 developmental field study of reliability of diagnoses of high-burden mental disorders : results among adult patients in mental health settings of 13 countries. *World Psychiatry*, 17 (2); 174-186, 2018
- 6) Reed, G. M., Keeley, J. W., Rebello, T. J., et al. : Clinical utility of ICD-11 diagnostic guidelines for high-burden mental disorders : results from mental health settings in 13 countries. *World Psychiatry*, 17 (3); 306-315, 2018
- 7) Reed, G. M., First, M. B., Kogan, C. S., et al. : Innovations and changes in the ICD-11 classification of mental, behavioural and neurodevelopmental disorders. *World Psychiatry*, 18 (1); 3-19, 2019
- 8) World Health Organization : ICD-11, International Classification of Diseases 11th Revision (<https://icd.who.int/en/>) (参照 2020-03-06)

※本論文は、プライバシー保護の観点から図表に関して本稿初出時より一部内容を改変した。